

平成18年 7月3日	病害虫発生予報 7月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------	------------------------------	------------------------

5月29日から全ての農作物に残留農薬基準が設定されました！！

薬剤散布の際は周囲への飛散に十分注意しましょう

< 目 次 >

. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稻：いもち病(葉いもち), 斑点米カメムシ類	1
ナシ：黒星病	2
ナシ：果樹カメムシ類(越冬世代成虫), ナシヒメシンクイ	3
ブドウ：べと病	3
夏ネギ：黒斑病, ベと病	4
夏ネギ：ネギアザミウマ	5
【その他の病害虫】	5
水稻, サツマイモ, ナシ, ブドウ, カキ, 夏ネギ, 夏秋ナス, 抑制トマト	
. 病害虫ミニ情報	
クモヘリカメムシの防除について	7
果樹のカメムシ類について	8
農薬登録速報(5月)の概要	9
. 今月の気象予報	
10	
. テレホンサービス	
10	
029(226)5321, 6131	
<p>本文に記載された農薬の登録内容は、平成18年6月21日現在のものです。 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認してください。</p>	
<p>詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，葉いもちの発生は平年並である（表1）。
気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並が多いと予想され，発生を助長する条件である。

表1 葉いもちの発生状況（6月下旬調査）

	葉いもち発病度			発生地点率（％）		
	本年	前年	平年	本年	前年	平年
県北	0.5	0.3	2.3	21	10	31
鹿行	0.2	0.0	1.3	17	0	17
県南	0.1	0.2	0.4	5	5	12
県西	0.6	0	0.1	8	0	6
全県	0.4	0.2	0.7	14	6	16

平年：過去10カ年の平均値

[防除上注意すべき事項]

水田の葉色が濃い部分等をよく観察し，発生がみられるほ場では薬剤防除を行う。

防除薬剤として，アミスターエイト，フジワン乳剤，ラブサイドフロアブル，キタジンP粒剤，オリブライトパック等がある。

粒剤は必ず湛水状態で散布し，4日間は湛水状態を保つ。その後生育に応じた水管理を行う。

例年梅雨明けとなる7月下旬まで発生量は増加するので，現在発生がみられないほ場でも，発生には注意が必要である。

20～25℃で連続した弱い降雨が続いた場合は，感染に好適な条件であるため，発生には特に注意する。

2. 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，水田周辺のイネ科雑草において，クモヘリカメムシ成虫の発生は認められず，平年並の発生である（表1）。

(水稻 斑点米カメムシ類 続き)

表 1 水田周辺のクモヘリカメムシ発生状況 (6 月下旬調査)

	調査地点数	発生地点数 (地点率)		
		本年	前年	平年
県北	29	0 (0%)	0 (0%)	0.4 (1%)
鹿行	6	0 (0%)	1 (17%)	0 (0%)
県南	19	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
県西	12	0 (0%)	0 (0%)	0.6 (5%)
全県	66	0 (0%)	1 (2%)	1.0 (2%)

平年：過去 5 カ年の平均値

[防除上注意すべき事項]

農道や畦畔等のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となるため，除草に努める。出穂期近くになってからの除草は行わない。

出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は防除を実施する。

乳熟期～糊熟期は，幼虫の発生を認めた場合に薬剤防除を行う。

幼虫の防除は適期に行う。幼虫の防除適期は予報 8 月号を参考にする。

(p.7 病害虫ミニ情報参照)

ナ シ

1 . 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6 月下旬現在，発生量は平年並～やや多い。

本病は降雨によって発生が助長される。気象予報によると，向こう 1 か月の降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。

発病部位を除去した後，防除暦に基づき，7 月上旬のストロビードライフフロアブル及び 7 月中旬のアンビルフロアブルの散布を確実に実施する。

果実肥大の盛んな時期は果実へ感染しやすいため，7 月中旬のアンビルフロアブルの散布は必ず実施する。

薬剤散布量は，10a 当たり 300 を目安にし，かけむらのないよう丁寧に散布する。なお，周囲への飛散 (ドリフト) に十分に注意した散布方法で行う。

薬剤耐性菌出現回避のため，DMI (EBI) 剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましい。

(ナシ 続き)

2. 果樹カメムシ類 (越冬世代成虫)

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在,チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は平年より多い。
本年は越冬量が多く,果樹カメムシ類の主要な餌のひとつであるスギ・ヒノキの球果が少ないため,果樹園への飛来が多いと予想される。

[防除上注意すべき事項]

ナシ園でカメムシ類を発見した場合は,MR.ジョーカー水和剤等で防除を行う。
薬剤散布量は,10a 当たり 300 を目安にし,かけむらのないよう丁寧に散布する。なお,周囲への飛散(ドリフト)に十分に注意した散布方法で行う。
薬剤散布は,カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。
7月以降に発生する新成虫の活動状況については,今後の防除所の最新情報を確認し,防除の参考にする。

(p.8 病害虫ミニ情報参照)

3. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在,フェロモントラップへの誘殺数は,笠間市で多く,小美玉市,石岡市,土浦市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

防除暦に基づき,7月中旬にシンクイムシ類に登録のある薬剤を散布する。
発生が多い年は,7月下旬から被害果が発生し始めるため,圃場をよく観察する。

ブドウ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	多い	県下全域

(ブドウ ベと病 続き)

[予報の根拠]

園芸研究所内のほ場(露地栽培無防除区)での発生が平年より多い。
気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病した葉及び果実は二次感染源になるので、見つけ次第除去し、土中深く埋める。
発病部位を除去した後、防除暦に基づき、7月上旬はアミスター10フロアブル、袋かけ直後の7月下旬にはランマンフロアブルの散布を確実にを行う。
発生の多いほ場では、袋かけ前に果実の汚れに注意して、ランマンフロアブルで追加防除を行う。
薬剤散布の際は周囲への飛散(ドリフト)に注意する。

(6月29日発表の病害虫情報 No.2 参照)

夏ネギ

1. 黒斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い~多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在、発病度は平年よりやや高く、発生地点率は平年より高い。
気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき、その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
薬剤散布量は、10a当たり250を目安にし、丁寧に散布する。また、薬剤を散布する際は、収穫前日数に十分注意する。
肥料切れや多肥は発生を助長するため、生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

2. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在、発病度は平年よりやや高く、発生地点率は平年より高い。
気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件である。

(夏ネギ ベと病 続き)

[防除上注意すべき事項]

発病初期の防除に重点をおき，その後の発病状況に応じて薬剤散布を行う。
 薬剤散布量は，10a 当たり 250 を目安にし，丁寧に散布する。また，薬剤を散布する際は，
 収穫前日数に十分注意する。
 肥料切れは発生を助長するため，生育状況に合わせ適切な肥培管理を行う。

3. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，被害度，発生地点率とも平年よりやや高い。
 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年並か高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

気温の上昇に伴い増殖が速くなるので，発生状況に応じて薬剤散布を行う。
 薬剤散布量は，10a 当たり 250 を目安にし，丁寧に散布する。また，薬剤を散布する際は，
 収穫前日数に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水 稲	紋枯病	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年並～やや多い発生である。例年発生の多い水田や，葉色が濃く，茎数が多い水田では発生に留意する。
	稲こうじ病	発生量： -	穂ばらみ期～出穂期にかけて低温で降雨が多いと発生が多いので注意する。
	ニカメイガ	発生量：やや多い	近年，発生量は増加傾向にある。
	イネツトムシ	発生量：平年並	7月下旬の成虫の発生量に注意する。防除適期は8月第1半旬である。
	イネクロカメムシ	発生量：平年並	6月下旬現在，山林付近の水田の周縁部で発生を認めている。
サ イ モ マ	ナカジロシタバ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ナシ	アブラムシ類	発生量：やや多い	6月下旬現在，県西地域で発生が多い。黄色水盤（笠間市）への誘殺数は、平年並である。梅雨明け後，高温条件になると発生は減少する。
	ハマキムシ類	発生量：やや多い	6月下旬現在，予察灯（かすみがうら市）へのチャハマキの誘殺数は平年より多い傾向にあるので，発生に注意する。
	ハダニ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並 ～やや多い	6月下旬現在，平年並～やや多い発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
カキ	落葉病類	発生量：やや多い	降雨により感染するため，防除を徹底する。
夏ネギ	さび病	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	マメハモグリバエ	発生量：多い	6月下旬現在，平年より多い発生である。発生初期の防除に重点をおき，その後の発生状況に応じて薬剤散布を行う。
	ミカンキイロ アザミウマ	発生量：平年並 ～やや少ない	6月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量：平年並 ～やや少ない	6月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
抑制 トマト	アザミウマ類・ コナジラミ類	発生量： -	各種ウイルス病を媒介するため，前作終了時の蒸し込みの実施や，育苗時の防除を徹底する。

クモヘリカメムシの防除について

水稻の斑点米カメムシ類のうち、本県の水田ではクモヘリカメムシが最も多く発生します。これまでクモヘリカメムシは県北、鹿行、筑波山周辺等で多発していましたが、近年は県南地域の平坦部でも生息密度が高い地点がみられます。これまで発生が少なかった地域でも斑点米カメムシ類の発生には注意が必要です。

発生生態（クモヘリカメムシ）

クモヘリカメムシ成虫は、7月になるとイネ科雑草等に生息しています。イネの出穂とともに水田へ移動して穂を吸汁、加害し、葉や穂に産卵します。ふ化した幼虫は収穫期までイネの穂を吸汁、加害しながら成長し、20～25日で成虫になります。

防除対策

- 1) 周辺よりも出穂の早い水田や、遅い水田では飛来が集中し、被害が大きくなる場合があります。発生には特に注意してください。
- 2) 農道や畦畔などのイネ科雑草は、イネを加害するカメムシ類の生息場所となるので、除草に努めて下さい。イネの出穂期近くになって除草すると、雑草にいるカメムシ類を水田へ追い込むことになるので、除草は出穂の10日前までには終わらせて下さい。
- 3) 薬剤による防除時期は、成虫飛来期（出穂期～穂揃期）あるいは幼虫発生期（乳熟期～糊熟期）です。発生が少ない場合は の1回、発生が多い場合は、 と の2回、さらに幼虫の発生状況に応じて追加散布が必要です。
- 4) 出穂期～穂揃期にクモヘリカメムシ成虫の生息が多い場合は、必ず防除を行ってください。
- 5) クモヘリカメムシは、薬剤抵抗性を獲得していないので、いずれの薬剤でも十分な効果が期待できます。

表1 カメムシ類に農薬登録のある主な薬剤

農薬名	施用量または希釈倍率	収穫前日数-剤の使用回数	成分名	成分の使用回数
スミチオン乳剤 *	1,000倍	21-3	MEP	4(本田期3回)
MR.ジョーカーEW	2,000倍 60～150 / 10a	14-2	シラフルオフェン	2
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	14-2	エチプロール	2
スミチオン粉剤 3DL	3～4kg/10a	14-3 (出穂前1回)	MEP	4(本田期3回)
MR.ジョーカー粉剤 DL	3～4kg/10a	7-2	シラフルオフェン	2
スタークル/アルパリン粉剤 DL	3kg/10a	7-3	ジノテフラン	4(本田期3回)
キラップ粉剤 DL	3～4kg/10a	14-2	エチプロール	2

*スミチオン乳剤は、取扱メーカーにより、農薬登録の有無が異なるので注意して下さい。

果樹のカメムシ類について

本年は、チャバネアオカメムシ越冬世代が多く発生しています。このため、平成 18 年 6 月 2 日に病害虫発生予察注意報を発表し、注意を呼びかけています。果樹園への飛来は、7 月も続くと考えられるため、引き続き十分な注意が必要です。

本年の発生状況

本年、チャバネアオカメムシの越冬量は、過去 11 年中最も多い水準にありました。また、予察灯への誘殺数は、6 月下旬現在、平年より多い状況です。このため、越冬世代が発生の中心と考えられる 7 月までは、カメムシ類の発生量が多い状態が続くと予想されます。8 月以降は、次世代の成虫が中心となるため、7 月のスギやヒノキ林での発生量調査を行って予測します。成虫の発生量に対して、エサとなるスギ・ヒノキの球果が不足した場合には、果樹園への飛来が多くなる恐れがあるので、今後も防除所の情報に留意してください。

発生生態

果樹のカメムシ類は、落葉の下や建物の隙間などで、成虫で越冬します。越冬した成虫は、気温の上昇に伴い活動を開始し、サクラやクワ等の果実をエサとしながらスギやヒノキの球果が成熟するのを待って、繁殖地であるスギ・ヒノキ林へ移動します。主要なエサはスギやヒノキの球果です。果樹園へは、この移動の過程で一部が飛来します。繁殖地では、主にスギやヒノキの葉や球果に産卵し 7 月頃から新世代成虫が出現します。成虫は年 2~3 回発生し、11 月になると越冬場所へ移動し、休眠します。

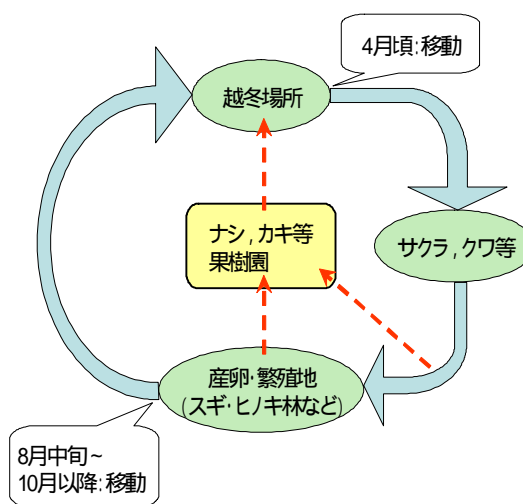


図 果樹カメムシ類の発生動向

防除対策

1) 物理的防除

多目的防災網（6mm 以下）の設置が有効です。これにより吸蛾類や気象災害（雹）による被害も同時に軽減することができます。

2) 薬剤防除

通常発生であれば、病害虫防除暦の防除体系で被害を回避できます。しかし、多発生時には、次々と園内に飛来するので、残効の長い薬剤を用いるなど、工夫が必要です。薬剤の残効期間の目安は、合成ピレスロイド系、有機ケイ素系、ネオニコチノイド系薬剤で 5~10 日程度、有機リン系薬剤で 2~3 日程度です。また、ネオニコチノイド系薬剤は忌避効果が期待できます。薬剤の散布は、風のない早朝に行ってください。

各薬剤の使用できる回数や収穫前日数を確認し、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意した散布方法で行ってください。

農薬登録速報（5月）の概要

平成18年5月期間中（5/1～5/31）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。
なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規> ブラシダントツフロアブル、ホクコーゲットワン粉剤DL、
緑化用スミチオン乳剤、緑化用ベンレート水和剤、アブラムシムシAL、
協友アディオオン乳剤
変更> DC油剤、D-D92、FMCガゼットMCフロアブル、
STロブラール500アクア、Zボルドー、アグロスリン水和剤、
アプロード水和剤、アルバリン粒剤、イカルガ35SC、カスケード乳剤、
カヤククロールピクリン、クミアイアグロスリン水和剤、
グリーンオイル、クロピクフロー、クロルピクリン錠剤、
サンケイスピンドロン乳剤、サンケイテロン92、サンマイト水和剤、
スタークル粒剤、ダニトロンフロアブル、テロン92、
ドイツボルドーA、バイオワーク水和剤、パダンSG水溶剤、
ハチハチ乳剤、ハッパ乳剤、バリアード顆粒水和剤、
プレオフロアブル、ベジキーパー水和剤、ベニカDスプレー、
ホクコーエルサン乳剤、ホクコースタークル粒剤、ホクコースピンドロン乳剤、
ボルドー、マツグリーン液剤2、ヤシマスピンドロン乳剤、
ヤシマロブラール500アクア、ヤシマロブラール水和剤、ラグビーMC粒剤、
ラブサイドイネメイト粉剤DL、ロブラール500アクア、
ロブラール水和剤、旭D-D92、花ベジタ100、三井東圧アルバリン粒剤、
三井東圧クロールピクリン、三共バリアード顆粒水和剤、
三共フロンサイド水和剤、三共硫黄粉剤50、
三菱ハチハチ乳剤、石原ネマトリンエース粒剤、石原フロンサイド水和剤、
石原ラグビーMC粒剤、南海クロールピクリン、日産エルサン乳剤、
日産ロブラール500アクア、日産ロブラール水和剤、日曹フロンサイド水和剤、
日農アグロスリン水和剤、日農エルサン乳剤、菱商テロン92、
武田ロブラール500アクア

除草剤等

新規> クサトレビアン
変更> ACCクリアター細粒剤F、ICIスパークスター粒剤、
カソロン粒剤、クリアター細粒剤F、グリホエキス液剤、サンフーロン液剤、
シリウスターボ1キ口粒剤、スパークスター粒剤、
デュボンクリアター細粒剤F、バスタ液剤、ホクコーカソロン粒剤2.5、
ラウンドアップハイロード、日農バスタ液剤

植調剤等

変更> クレフノン、ビオロックフロアブル、理研ビオロックフロアブル

失効農薬

オキシボルドウ、クミアイバイジット粉剤2DL、
クミアイレルダン粉剤2DL、スミバッサNSゾル、
スミポリー水和剤、トモノダイアジノン粒剤3、
ニティア、バイエルレルダンモンセレンマク粉剤DL、
バイジット粉剤2DL、バイミックスB粉剤8DL、
パラフィン24、ヤシマスミバッサNSゾル、ヤシマダイアジノン粒剤3、
ヤシマレルダン粉剤2DL、日産モンカットファイン粉剤20DL、
日産モンラブF粉剤DL

農薬の登録失効は、同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので、ご注意ください。

．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 7 月 1 日から 7 月 30 日)

気象庁 (6 月 30 日 発表)

< 向こう 1 か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並か多いでしょう。日照時間は平年並でしょう。

< 1 週目の予報 > 7 月 1 日 (土曜日) から 7 月 7 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 2 週目の予報 > 7 月 8 日 (土曜日) から 7 月 14 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い

< 3 週目から 4 週目の予報 > 7 月 15 日 (土曜日) から 7 月 28 日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

．テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために，病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029 (226) 5321 , 6131

- 7 月上旬 水稻及び果樹病害虫の発生現況と防除対策について
- 7 月中旬 水稻のいもち病と斑点米カメムシ類の対策について
- 7 月下旬 果樹病害虫の発生現況と防除対策について
- 8 月上旬 水稻及びダイズ病害虫の発生現況と防除対策について